

# 中学校英語科における帯活動用プラン集の作成と活用

—— 生徒が英語を書いて自己表現する能力を高める指導の充実を目指して ——

長期研修員 江原 良和

## 《研究の概要》

本研究では、生徒が英語を書いて自己表現する能力を高める指導の充実を目指した。そこで、「生徒学習プリント」「帯活動支援グッズ」「単元別帯活動配列一覧表」「教科書別帯活動対応一覧表」の四つをパッケージ化した、中学校英語科における帯活動用プラン集を作成した。研究協力校において、本プラン集を活用し、帯活動を毎時間の授業の中に位置付け、実践を行った。本プラン集が、生徒の英語の語彙力や英文構造を理解する力を高め、英語を書こうとする意欲を高め、生徒が英語を書いて自己表現する能力を高めるのに有効であることを明らかにした。

**キーワード** 【 英語—中 帯活動 書くこと 自己表現 プラン集 】

群馬県総合教育センター

分類記号：G09-02 平成26年度 252集

## I 主題設定の理由

平成20年3月告示の中学校学習指導要領改訂の趣旨において、知識基盤社会の到来や経済のグローバル化が進む中、情報や話者の意図などを理解する「受信力」とどまらず、コミュニケーションの中で自らの考えを表現する「発信力」の育成が重要であるとの指摘がある。「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識について自らの経験などと結び付けながら、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができるよう、四つの言語活動を統合的に育成する指導の充実を図ることが求められている。

国立教育政策研究所教育課程研究センターの「特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」平成24年1月）」の結果によると、「基礎的・基本的な知識・技能」、「読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力」、「資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力」に課題があると指摘されている。また、群馬県教育委員会「第2回ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査結果分析資料」（英語：平成25年7月）によると、20語程度の英作文をさせたとき、問題文中の例をそのまま書き写してしまったり、文法のミスのために文意が伝わる英文を書くことができなかつたりした生徒が全体の42%を占めた。この点を踏まえ、「はばたく群馬の指導プラン」は、「まとまりのある文を正しい英語で書く」ことを課題の一つとし、「正しい語順で英文を書くことができる」「正しい綴りで英文を書くことができる」「身近な話題や自分の考えなどについてまとまりのある一貫した英文を書くことができる」という目標を掲げている。

研究協力校の生徒を見ると、「書くこと」に関して課題が多い。そのため、教師は、授業の終了時に学習した新出文法事項を用いて自己表現させたり、ワークシート等を活用して家庭学習を具体的に指示したりして、生徒が英語を書く「時間」と「量」を確保しようとしてきた。しかし、多くの生徒は英語を書くことに抵抗感を持っている。まとまりのある文を正しい英語で書く活動においては、教師やALTの支援があつて初めて書く活動に取り組むことができる生徒が多い。全国標準学力検査NRT（英語科）の結果においても、「書くこと」に関する問題の正答率が最も低かつた。また、問題ごとの「無答率」を分析すると、「書くこと」の割合が最も高く、受検者の25%が無答の問題もあつた。

生徒が英語を書いて自己表現することが苦手な原因としては、これまでの授業で英語を書く活動が継続的に行われていなかったことや、英語で自己表現することの基盤となる英語の語彙力の不足や英文構造の知識が十分に定着していなかったことが考えられる。また、英語を「書くこと」に慣れ親しんでおらず、作成した英文に自信を持つことができなことが挙げられる。

このような課題を解決するために、本研究では英語の語彙力の向上及び英文構造の理解を中心とした帯活動用プラン集を作成し、毎時間の授業の中で活用することとする。帯活動を日々の授業の中に位置付け、継続的・螺旋的に行うことで、英語に関する知識の効率的な蓄積と定着が期待できる。また、毎時間少しずつ積み重ねていくことで、生徒が楽しく、飽きずに取り組むことができ、英語を書いて自己表現する能力が高まっていく効果も期待できる。

以上のことから、生徒学習プリント、帯活動支援グッズ、単元別帯活動配列一覧表、教科書別帯活動対応一覧表の四つで構成される帯活動用プラン集を作成し学校現場に提供することで、生徒に英語の語彙力や英文構造を理解する力を身に付けさせ、英語を書いて自己表現する能力を高めさせたいと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

中学校英語科において、生徒が英語を書いて自己表現する能力を高める指導の充実を目指すために、英語の語彙力、英文構造を理解する力、英語を書こうとする意欲の向上を主たる目的とした帯活動用プラン集を作成し、毎時間の授業の中で活用することを積極的に学校へ提言し、協働的な実践を行うことで、生徒の英語を書く力の向上に対する有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 「帯活動」

中学校学習指導要領解説外国語編では、言語活動の取扱いについて「第2学年においては第1学年での学習内容を、第3学年においては第1学年及び第2学年での学習内容を、言語活動の中で繰り返し学習することで、言語材料の定着を図るとともに、それらを実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動において活用させることが重要である」と示しており、既習事項を繰り返し学習させることを重要視している。

本研究では、帯活動を「授業の一定の時間帯に継続的・螺旋的に行う活動で、触れさせ、慣れさせ、使わせ、覚えさせる活動の場」とし、授業冒頭10～15分程度で行う(図1)。日々の授業の中で帯活動を継続的・螺旋的に行い、毎回少しずつ積み重ねることで、知識の効率的な蓄積と定着を図ることができる。また、授業の活性化、学習習慣の形成、英語の授業としての雰囲気づくりなどの効果が期待できる。扱う内容は生徒の知的好奇心を満足させ、英語学習への意欲付けとなるようなものを設定し、教科書単元(題材)の学習内容と関連付けることで、教科書の進度を妨げないものとする。

##### (2) 英語を書いて自己表現する能力を高める

本研究では、「生徒が英語を書いて自己表現する能力」を「自分の意見、考えや気持ちを各自の経験に基づき、読み手に対して分かりやすく英語で書くことができる能力」とする。

英語科における表現の学習領域は「話すこと」「書くこと」の二つがある。研究協力校の生徒の実態やNRTの結果から、自分自身に関することや自分の興味がある話題について英語で「話すこと」については、比較的良くできている。一方、英語で「書くこと」に関しては、生徒の抵抗感が強く、生徒にとって労力を要する活動となっている。

中学校学習指導要領外国語編では、英語の「書くこと」の目標の中に「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする」と示されており、「書くこと」における具体的な言語活動は五点示されている(図2)。これは単に与えられた単語や英文

を書き写すことができるだけでなく、自分の意見や感想などを表現するために、習得した知識を総合して書くことを目標としている。英語で「書く」力は日常の継続的・螺旋的指導の中で、四つの言語活動(「書くこと」「話すこと」「聞くこと」「読むこと」)が結び付いたコミュニケーション活動の中で少しずつ育成されるものである。そこで、本研究では、英語を書いて自己表現する能力を高める要素を、①英語の語彙力、②英文構造を理解する力、③英語を書いてみようという意欲の三つとする(図3)。英文を書くことができるようになるためには、英語の語彙力や英文構造を理解

単元における指導の流れ(Unit2の例)		
時	1単位時間の授業内容	
	10～15分	35～40分
1	帯活動201 新出単語を復習しよう	教科書12ページ 新出文法事項
2	帯活動202 これからの予定を表現しよう	教科書12ページ 内容理解
9	帯活動209 英語でしりとりをやろう	教科書17ページ Listening +2 海外旅行
10	帯活動210 未来日記を書こう	教科書16ページ Unit2のまとめ

図1 単元における指導の流れ

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと
- (イ) 語と語とのつながりなどに注意して正しく文を書くこと
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること
- (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと
- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと

図2 「書くこと」の言語活動

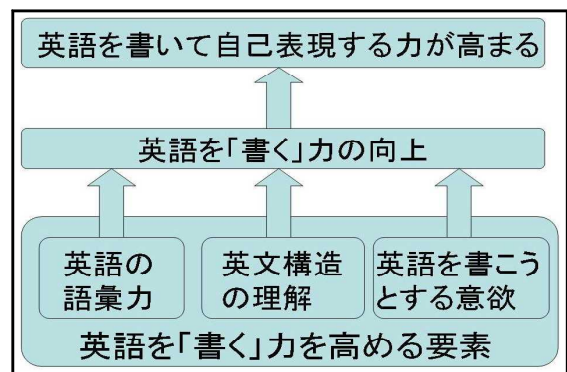


図3 自己表現能力の向上

する力（文法力）が必要となる。また、英語を「使ってみよう」「書いてみよう」という意欲が必要となってくる。授業の中で自然な英語表現に慣れ親しむことができる帯活動を通して、これらの力を付け、意欲の向上を図ることができれば、生徒が英語を書いて自己表現する能力が高まると考える。

## 2 先行研究とのつながり

松尾（2011）は、書く能力を育成するための教材及び学習指導開発を進める中で、日々の指導を通して、生徒に書く力を付けるためには継続的で繰り返しの指導が必要である、と述べている。菊池（2012）は、単元のまとめなどでアウトプット活動を設定することは、既習事項を活用し、基礎・基本の定着を促すとともに、生徒が英語で表現しようとする意欲を喚起し、表現力を伸ばすことができると述べている。しかし、「書く」場面では、間違いを恐れた生徒の意欲が低下したり、以前に学習した語彙や文法が定着していなかったりして、意識の向上を図ることができなかつたとしている。既習の語彙や文法を繰り返し取り上げて、定着の工夫を図る授業づくりを行うとともに、自分の考えや意見を「書く」意欲を高め、「書く力」を伸ばす指導について課題があると感じている。そこで、帯活動において、英語の語彙力の向上、英文構造の理解を中心とした課題に継続的・螺旋的に取り組むことで、これらの課題を解決できると考える。

## 3 教材の概要

### (1) 帯活動用プラン集作成上の方針

#### ① 生徒の興味を喚起するような教材を作成する。

生徒の学習意欲の向上を図るため、英語での「国名」や「スポーツ名」などの生徒の興味を喚起するような教材を作成する。教科書などから提供される話題や題材に関連した単語集や表現集を作成し、生徒の英語に対する関心を高めるための指導の工夫や教材を提供する。

#### ② 教科書単元の新出文法事項と関連させる。

帯活動における学習内容は、授業の復習を中心としたものにし、新出文法事項とリンクさせる。1回あたり10～15分という短い活動時間の中で行うので、生徒が効率的に学ぶことができ、心理的な負担感のないものにする。

#### ③ 既習事項を継続的・螺旋的に学習できる教材を作成する。

言語学習において必要なものとして、語彙の知識や習得、文構造の知識の定着・運用などがある。これらはすぐに身に付くものではなく、定着するまでに時間がかかる。そこで、既習の言語材料や学習内容に、視点を変えながら繰り返し取り組むことができる教材を作成する。

#### ④ 実践上の課題を把握し、修正を進める。

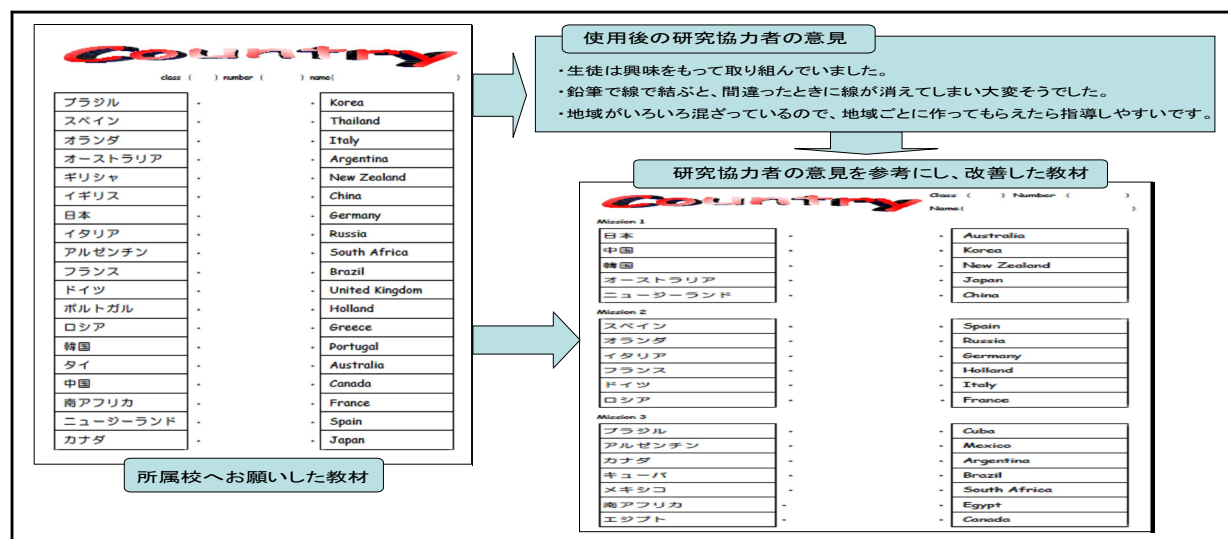


図4 研究協力者の意見を取り入れた教材修正、改善例

研究協力者と密に連絡を取り合い、生徒学習プリントや帯活動支援グッズの実践上の課題を把握し、研究協力者の意見を取り入れながら修正し、改善を図っていく（図4）。

## (2) 帯活動用プラン集の構成

本プラン集は、生徒が授業において取り組む生徒配付プリントや英語で表現する活動を行う際に参考となる単語・表現集を含めた生徒向け学習資料「生徒学習プリント」、教師がICT機器を利用しながら授業を展開でき、プレゼンテーションソフトで作成した提示用資料や帯活動を指導する際に参考となる帯活動支援シートを含めた教師向け指導用資料「帯活動支援グッズ」、単元における帯活動の全体を確認することができる「単元別帯活動配列一覧表」、本県の中学校で使用されている英語の教科書を網羅し、開発した教材をどの単元で使用することができるかを示した「教科書別帯活動対応一覧表」の四つの資料をパッケージ化した構成になっている（図5）。

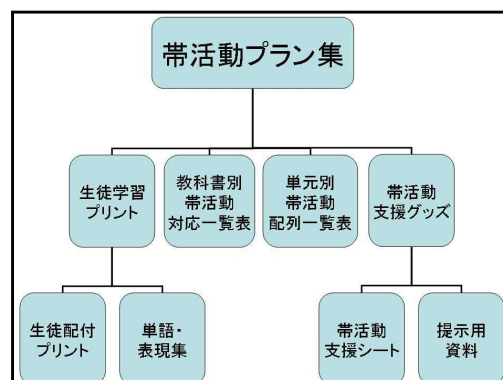


図5 帯活動用プラン集構成図

## (3) 帯活動用プラン集の内容

### ① 生徒学習プリント

「生徒学習プリント」は、「生徒配付プリント」と「単語・表現集」をまとめて単元別に収録したものである（図6、図7）。二つとも生徒や教師にとって負担感がないようにA4判1枚表裏で作成した。生徒配付プリントは、生徒が授業において使用するワークシートであり、英語の語彙力の向上、英文構造を理解する力（文法力）の向上をねらいとしている。また、生徒が意欲的に書くことができるように身近な題材を設定し、習得した語彙や英文構造を活用させることもねらいとしている。

単語・表現集は、生徒が英語で表現する活動を行う際に参考となるものであり、必要に応じて配付を行う。生徒の英語力に応じた支援をねらいとしており、よく使用する単語や表現をまとめてある。

**生徒配付プリントの例**

A4判1枚(表裏)で作成した。

意欲的に書かせるために身近な題材を設定した。

文構造への基本的理解と定着をねらいとした。

表現活動につなげるための問題を設定し、表現する際のヒントになる。

習得した語彙や文構造を活用させることをねらいとした。

Class ( ) Number ( )  
Name ( )

あ	い	う	え
お	か	き	く

Mission 1 英文に合うイラストを上から記号で選びましょう。

- ( ) We can park our car here. That's a parking sign.
- ( ) Look at the weather report. It will be raining tomorrow. Take your umbrella with you.
- ( ) We must save the earth.
- ( ) You are a new car driver. You must put this sticker on your car in Japan.
- ( ) You can't turn back. This street is one way.
- ( ) Excuse me, boys. You must not use this room. This is for ladies.
- ( ) Guide dogs can enter with the owner.
- ( ) You must not shake this box. Glasses are in the box.

Mission 2 自分で選んで下のイラストが示すことを3つ以上英語で表現しましょう。

--	--	--	--	--

生徒が英語で表現する欄

図6 生徒配付プリントの例

Animals			
Class ( ) Number ( )		Name ( )	
アイアイ	eye-eye	アライグマ	raccoon
アルマジロ	armadillo	犬	dog
ウサギ	rabbit	馬	horse
雄牛	bull	オオカミ	wolf
オランウータン	orangutan	雄鶏	rooster
カバ	hippopotamus (hippo / river horse)	カモノハシ	platypus
カンガルー	kangaroo	キツネ	fox
キリン	giraffe	クマ	bear
コアラ	koala	子犬	puppy
子猫	kitten	ゴリラ	gorilla
サイ	rhinoceros	猿	monkey
シカ	deer	シマウマ	zebra
シマリス	chipmunk	シャム猫	Siamese cat
水牛	buffalo	スカンク	skunk
ゾウ	elephant	チンパンジー	chimpanzee
ドブネズミ	rat	トラ	tiger
ナマケモノ	sloth	乳牛	cow
ネコ	cat	ネズミ	rat
ハイエナ	hyena	ハツカネズミ	mouse
ハムスター	hamster	ハリネズミ	hedgehog
パンダ	panda	ビーバー	beaver
ヒツジ	sheep	ヒヒ	baboon
ヒョウ	leopard	フェレット	ferret
フクロネズミ	opossum	豚	pig
雌鶏	hen	モグラ	mole
モルモット	guinea pig	ヤギ	goat
ヤマアラシ	porcupine	ライオン	lion
ラクダ	camel	ラマ	llama
リス	squirrel	ロバ	donkey
ワラビー	wallaby	アオムシ	green caterpillar
アカガエル	brown frog	アリ	ant
イモムシ	caterpillar	イモリ	newt
蚊	mosquito	蝶	moth
カエル	frog	カブトムシ	beetle
ガマガエル	toad	カマキリ	mantis
カメレオン	chameleon	ガラガラヘビ	rattlesnake
クモ	spider	クワガタムシ	stag beetle
コオロギ	cricket	コブラ	cobra
サソリ	scorpion	サンショウウオ	salamander
シラミ	louse	スズメバチ	wasp
セミ	cicada	ダニ	tick
蝶	butterfly	テントウムシ	ladybug
トカゲ	lizard	トンボ	dragonfly
ナメクジ	slug	ノミ	flea
ハエ	fly	ハチ	bee
バッタ	grasshopper	ヒキガエル	toad
ヘビ	snake	ミツバチ	honeybee
アオカケス	blue jay	アオサギ	heron
アヒル	duck	アホウドリ	albatross
インコ	parakeet	ウグイス	Japanese nightingale
エミュー	emu	オウム	parrot
カケス	jay	ガチョウ	goose
カモ	duck	カモメ	seagull
カラス	crow	キウイ	kiwi
キジ	pheasant	キツツキ	woodpecker
クジャウ	peacock	七面鳥	turkey
スズメ	sparrow	鷹	hawk
ダチョウ	ostrich	ツバメ	swallow
鶴	crane	ナイチンゲール	nightingale
白鳥	swan	ハチドリ	hummingbird
ハト	pigeon	ヒヨコ	chick
フクロウ	owl	ペリカン	pelican
ペンギン	penguin	ホオジロ	burrowing
ホトトギス	little cuckoo	雪鳥	snow grouse
ワシ	eagle	アザラシ	seal
あさり	asari clam	アシカ	sea lion
アワビ	abalone	イカ	squid
イソギンチャク	sea anemone	イワシ	sardine
イルカ	dolphin	ウニ	sea urchin
ウナギ	eel	オタマジャクシ	tadpole
エイ	ray	カニ	crab
カエル	frog	カニ	crab
カツオ	bonito	カレイ	right-eye flounder
カメ	turtle	クジラ	whale
鯉魚	goldfish	墨エビ	prawn
クラゲ	jellyfish	サケ	salmon
サバ	mackerel	サメ	shark
しじみ	shijimi clam	セイウチ	walrus
スズキ	suzuki	タヌキ	possum
タコ	octopus	人魚	mermaid
タラ	cod	ハマグリ	clam
ネズミイルカ	porpoise	ヒトデ	starfish
ヒメガエル	toad	ホウオウ	scout
ヒラメ	half-eye flounder	ムール貝	mussel
マグロ	tuna	ラッコ	sea otter
メカジキ	swordfish	ウニ	sea urchin
ニゴシタ	lobster	ワニ	crocodile
ニジマス	rainbow trout	ワカサギ	hypomesus olidus
ブラックバス	black bass	ザリガニ	crayfish
ナマズ	catfish		

実際は表裏両面印刷で生徒に配付する

生徒の英語力に応じた支援を目的に、よく使用する単語や表現をまとめてある

図7 単語・表現集の例

② 帯活動支援グッズ

帯活動支援グッズは、「帯活動支援シート」と授業中に使用することができる「提示用資料」の二つで構成されている教師向けの指導用資料である(図8、図9)。帯活動支援シートは、授業中

図8 帯活動支援シートの例

使用しやすいように、A4判1枚表面のみで作成した。詳細な指導の流れ、活動時間の目安、指導上の留意点などを掲載した。また、問題の解説を行う際の参考になるように、解答や板書計画、指導のポイントも掲載した。提示用資料は、教師がICT機器を利用しながら活動を展開することで、生徒の理解の支援を目的とし、プレゼンテーションソフトで作成した補助教材である。

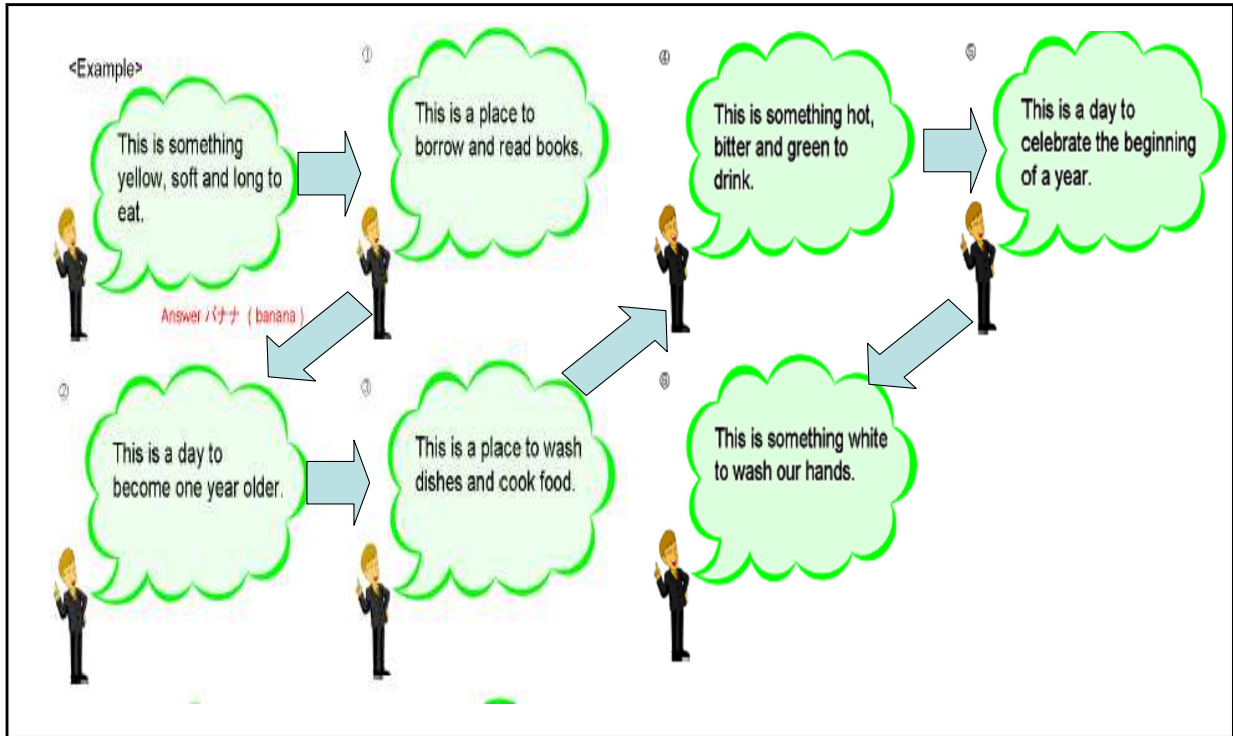


図9 提示用資料の例

③ 単元別帯活動配列一覧表

単元別帯活動配列一覧表の例 (Unit5)

帯活動の番号を示した。501とはUnit5の1回目という意味である。

研究協力校の年間指導計画に基づいて単元を扱う時数を設定した。

おおまかな指導の流れを掲載しました。詳細は帯活動支援シートに記載されている。

単元別帯活動配列一覧表 Unit 5 : A New Language Service (10時間扱い)

番号	主な学習内容・新出文法事項	帯活動タイトル(領域)	主な指導の流れ	Total	Sunshine	Crown
501	教科書50ページ新出文法事項 If you are interested, please call us.	Homestay kayokoさんがホームステイで体験したことは? (Listening / Reading / Writing)	①教師が読む英語を聞きながら、日本語で()に答えを記入させる。 ②全体で答え合わせを行う。 ③各自で英文を読ませ、質問に英語で答えさせる。 ④終了した生徒には、発展問題に取り組ませる。	1年 2年 4-Review 3年	2-2	3-2-3-Listen
502	教科書50ページ内容理解	If... what do you do? 10000円あったら何をします? (Reading / Writing)	①英文の組み合わせを考え、線で結ばせ、全体で答え合わせを行う。 ②Mission3に取り組ませる。 *Bバージョンを行う場合は1ドル、1ウォン、1円が日本円でいくらか生徒に想像させながら書かせる。 ③数名の生徒を指名し、答えを発表させる。 ④次時までに提出させ、教師またはALTがチェックし、生徒にフィードバックする。	1年 2年 8-C,Reading3C,3D 3年	5-3-7-3	We're talking3
~	~	~	~	~	~	~
509	教科書55ページ Listening +5 今日のニュース	Living with dogs 補助犬についてポスターを作ろう (Reading / Writing)	①生徒学習プリントを配布し、裏面の英文を読ませ、大意をつかませる。 ②Mission 1を行い、全体で答え合わせを行う。 ③依頼されたポスターを英語で作成させる。 *文の形や内容にとらわれず、伝えたいことを端的に表す英語を使用させる。 ④次時までに提出させ、教師またはALTがチェックし、生徒にフィードバックする。	1年 2年 5-Review,6-Review 3年	Program8	7-Listen 5-Read
510	教科書54ページ Review	Reply to an Invitation 相手の誘いを断ってみよう (Reading / Writing)	①生徒学習プリントを配付し、受け取った電子メールについての内容の確認をする。 ②表現集「断る表現」を配付する。 ③誘いを断る表現を使い、返信のメールを表現させる。 ④次時までに提出させ、教師またはALTがチェックし、生徒にフィードバックする。	1年 3-C 2年 3-D,3-Review,4-D 6-C	Speaking2	We're talking7

教科書での主な学習内容、新出文法事項を掲載した。

帯活動のタイトル、使用する主な技能を示した。

各単元の最後に新出文法事項を使用した活用問題を設定した。

研究協力校で使用されている教科書以外で使用の際に、どの単元で使用できるか示した。詳細は教科書別帯活動対応一覧表にて確認できる。

図10 単元別帯活動配列一覧表の例

単元別帯活動配列一覧表とは、どのような帯活動が設定されているのかを単元ごとに示した表である（図10）。新しい単元に入る際にこの表を用いることで、単元で行う帯活動の内容の流れを把握でき、指導の見通しを持つことができる。また、授業を組み立てる際の参考資料として利用することができる。

各単元の最後には、単元内の新出文法事項を活用することができる表現問題を設定した（図11）。教師は、この問題に対する生徒の取組状況や解答の様子から、語彙の使用状況や英文構造の定着状況を見取ることができる。また、教師は生徒の書いた英文を必ず回収し、毎回添削を行う。表現を高めるアドバイスを行ったり、定着が不十分な文法事項などの指導をしたりすることができ、個々の生徒へのきめ細やかな支援を可能にする。

**各単元における新出文法事項を活用した問題例**

問題文やタイトルから、場面把握や取り組む問題について概要をつかませる。

問題を解くために必要な情報やヒントを獲得させる。形式は会話文、語順整理、メール、インタビューなどを設定した。

単元を通して身に付けた知識・技能の活用をねらいとした問題を設定した。

各単元において、事実や自分の気持ちなどを英語で表現させる。既習事項を活用し、かつ単元で新しく学習した表現を使用させる。

図11 各単元における新出文法事項を活用した表現問題例

④ 教科書別帯活動対応一覧表

**教科書別帯活動対応一覧表( Total English ) の例**

作成した教材が、各学年のどの単元及び小単元で使用できるのかを示しました。

**Total English 帯活動対応一覧表**

1年				2年				3年			
単元名	小単元	主な言語材料等	帯活動教材番号	単元名	小単元	主な言語材料等	帯活動教材番号	単元名	小単元	主な言語材料等	帯活動教材番号
Pre-Lesson				Pre-Lesson	A		101	Pre-Lesson	A		507/609
Let's Start				Spring Vacation	B		105	Do You Eat	B		
Lesson 1 好きなものは？	1A	I like ~.	303	Lesson 1 Japanese	1A	I was ~ / They were ~.	102/303/408	Lesson 1 Report for Our School	1A	~call me Taku.	
	1B	Do you play ~?			1B	Were you ~ ?	102		1B	~is written in ~.	
	1C	I do not like ~.	408		1C	You look / look like ~	107		1C	Is English spoken ~?	
Check it Out 1		Lesson1 のまとめ		Sports	Review		105/109	Trip	Review		
Word Tree		数字	503	Word Tree		家族・親類		Action 1		Do You Know How To ~?	
Lesson 2 先生に聞いてみよう	2A	I have two dogs.	207/604				辞書を使ってみよう		Word Tree		Scenery
	2B	What do you ~?		Lesson 2 Gestures	2A	I was watching ~.	104	Chapter 1 Project		日本の伝統文化を紹介しよう	203
	2C	How many ~?	604		2B	When Jack called me. ~.	506/507	Check It Out 1		Chapter 1 のまとめ	
	Review		604		2C	I think (that) ~.	504	Lesson 2	2A	I have just arrived ~.	303

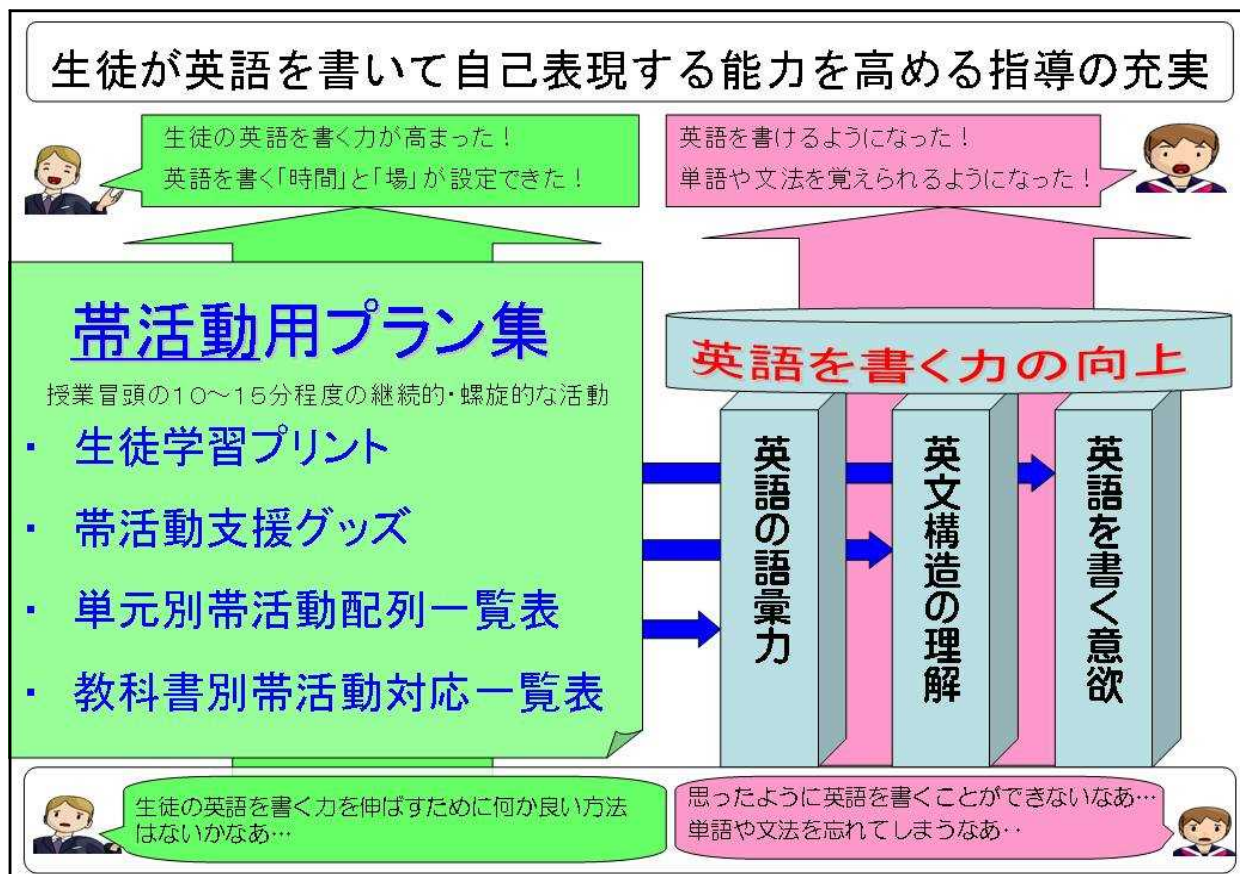
教材は中学校2年生の学習内容で作成しました。指導の方法及びプリントを少し加工することで、各学年とも小単元の復習として利用することができます。

図12 教科書別帯活動対応一覧表の例



教科書別帯活動対応一覧表とは、東京書籍以外の教科書を使用している中学校において本教材を使用する際に参考になる表である（図12）。作成した教材が各学年のどの単元及び小単元において使用することができるのかを示した。本研究では、中学校2年生の学習内容を中心に作成している。生徒の実態に応じて指導方法やプリントの内容を少し変更することで、中学校1、3年生でも使用することができる。また、各単元の復習としても利用することができる。

#### 4 研究構想図



### IV 研究の計画と方法

#### 1 実践の概要

対 象	研究協力校 中学校第2学年
実践期間	平成26年5月～11月
実践形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期研修員は、単元ごとに生徒学習プリント、帯活動支援グッズ、単元別帯活動配列一覧表を作成後、研究協力校の研究協力者にそれらの説明を行う。</li> <li>・ 長期研修員は、1単元の中で必ず1回は研究協力校において授業観察をし、作成教材の活用状況及び生徒の取組状況の確認を行い、教材や指導の流れなどの課題を把握する。また、必要に応じて実践を行う。</li> <li>・ 研究協力者は帯活動用プラン集に基づき授業を行う。作成教材や学習内容に関して、実践の中での生徒の取組の様子や改善点などを改善シートに記入し、長期研修員に報告する。</li> <li>・ 長期研修員は、改善シートや研究協力校を訪問したときの情報交換で出た意見を参考にして、プラン集の再修正を行う。</li> <li>・ 長期研修員は、再修正を行ったプラン集を研究協力者に確認してもらい、完成版を作成する。</li> </ul>

## 2 検証のための生徒群（中学校2年生2クラス）

検証生徒群	研究協力校における第1回確認テストの結果及び実態
A群9名（12%）	表現の能力を問う問題において達成率80%以上の生徒 実態：英語の語彙の習得が十分で、英文構造をほぼ理解している生徒
B群30名（39%）	表現の能力を問う問題において達成率45%～79%の生徒 実態：英語の語彙の習得が十分でなく、英文構造の理解があいまいな生徒
C群38名（49%）	表現の能力を問う問題において達成率45%未満の生徒 実態：英語の語彙の習得が不十分で、英文構造の理解が乏しい生徒

## 3 検証計画

検証の観点	検証の方法
1 帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施したことで、生徒の英語の語彙力が高まったか。	・アンケート ・英作文テスト
2 帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施したことで、生徒の英文構造を理解する力が高まったか。	・アンケート ・英作文テスト ・研究協力者への聴き取り調査
3 帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施したことで、生徒の英語を書いてみようという意欲を高めることができたか。	・アンケート ・研究協力者への聴き取り調査

## 4 実践

通常の実践は、研究協力者に年間を通じてプラン集に基づいて行ってもらっている。下記に示す実践例は長期研修員が研究協力校を訪問し、行った授業である。

単元名 A New Language Service （New Horizon English Course 2 Unit 5 東京書籍）	
実践時期 平成26年11月	
ねらい 教科書52ページの新聞記事を理解し、内容に関する Q-A問題を2問以上作成することができる。	
主な学習活動（時間）（図13、図14）	主な指導上の留意点及び支援・評価
1 Greeting（1分）	
2 帯活動 506（12分） Quiz「クイズに答えて問題を作ろう」 ○前時に配付し、家庭学習で取り組ませた問題の答え合わせを行う。  ○発展問題 ・接続詞whenを用いての問題作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発言を促すために、答え合わせは教師と生徒の英語によるインタラクションで行う。</li> <li>◎解答を日本語で書いた生徒には、語彙力を高めさせるために、英単語のスペルを確認するように伝える。</li> <li>◎問題を作成する際には、答えを先に決めると作りやすいことを伝える。</li> <li>・必要に応じて使わせるために、和英辞典を用意しておく。</li> <li>・英語での表現の仕方を理解させるために、分からないときには、和英辞典を参考にする、ペアに相談する、教師に質問するかのいずれかを選択させる。</li> <li>◎問題を作成するために、Mission 1 で使われている表現や英文が参考になることを伝える。</li> <li>・早く終了した生徒には、表現力の向上を図るために、プリントの裏にさらに問題を作成させる。</li> <li>・表現をチェックし、生徒にフィードバックするために、次時まで提出させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Mission 1 の問題例</p> <p>1. When it's rainy, what do you use to walk outside? （Answer : umbrella）</p> <p>2. What do you use when you wash your hands or body? （Answer : soap）</p> </div>	

<p>3 教科書52ページの内容理解 (20分)</p> <p>○教科書本文の聞き取り</p> <p>○New Words</p> <p>○教科書本文の内容理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(Listening Points)</p> <p>1 緑市はいつから外国語サービスを開始しますか。</p> <p>2 緑市は何人くらいの外国人が住んでいますか。</p> <p>・</p> </div>	<p>・生徒が内容のおおまかな理解ができるようにListening Points を示す。</p> <p>・意味の確認については、生徒から意味を言わせるために、教師と生徒のインタラクションの中で行う。</p> <p>・生徒に内容を理解させるために、ワークシートの工夫を行う。</p> <p>・早く終了した生徒には、教科書内容の T-F問題に取り組ませるために、別プリントを用意する。</p>
<p>4 新聞記事の内容に関する Q-A問題作成 (15分)</p>	<p>・生徒がスムーズに活動に取り組めるようにするために、モデルとなる英文を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(Samples)</p> <p>1. Is the city looking for volunteers now ? → Yes, it is.</p> <p>2. How many foreign people live in Midori City ? → About 3000 foreign people live in Midori City.</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>教科書52ページの新聞記事の内容を理解し、内容に関する質問とその答えを英語で表現することができる。 (ワークシート)【表現】</p> </div> <p>・終了していない生徒への参考させるために、活動の途中で、終了した生徒の英文を ICT機器を使用して全体で共有する。</p>
<p>5 活動の振り返り (2分)</p>	

常活動支援シート506(Writing)

活動時間の目安  
Mission 1: 5分  
Mission 2: 8分

**Quiz**  
クイズに答えて問題を作ろう

<指導の流れ>

①Mission 1を行う。(即時に配布し、この部分を宿題としても可)

\*答えが英語で書けない場合は、日本語で書いておくように指示する。

②全体で答え合わせを行う。

③(時間があれば)発展問題に取り組ませる。

\*問題が作成できた生徒には、プリントの裏にさらに作成するように指示

\*なかなか作成できない生徒には、Mission 1の英文を参考にするように声をかける。

④次時までに提出させ、教師またはALTがチェックする。

<留意点>

・Mission 1で時間がかかってしまった場合、発展問題は宿題として利用できます。その際には必ず集めてチェックしましょう。

・問題作成の際には、答えを先に決めると書きやすいなどの声かけをしましょう。

・発展問題で作成した英文は紹介しあげると励みになります。(例)コピーして、クイズ集として配付する。

○添削後、カードに書かせて教室や廊下に掲示する。

Memo

解答

Class: | Number: |

Name: |

Mission 1 英文を讀んで、クイズに答えるよう、選定は黒板で書く。

(EX) What do you stick on an envelope when you send a letter?  
Ans. | stamp

1. When it's rainy, what do you use to walk outside?  
Ans. | um b r e l l e

2. What do you use when you wash your hands or body?  
Ans. | s a p e

3. When you read and borrow books, where do you go?  
Ans. | l i b r a r y

4. When you are sick, where do you go to see a doctor?  
Ans. | h o s p i t a l

5. What can you drive when you will be 18 years old and get a license?  
Ans. | car

6. When you write something on the blackboard, what do you use?  
Ans. | chalk

7. When you see in the sky at night, what do you see?  
Ans. | (EX) star

(発展) 上の問題を参考に、自分で when を使って問題を作ってみよう。

Ans. |

Question:

生徒が作成した問題は全体にフィードバックすると励みになります

英語で書けない生徒には日本語で答えるように指示しましょう

物の例 cloud / star / moon など

図13 実践授業で使用した常活動支援シート及び生徒の活動の様子

Ans. ( pen )

Question: When you write something on the notebook, what do you use?

Ans. ( Marker )

Question: When you write something on the white board, what do you use?

Ans. ( a bike )

Question: When you go to school, what do you use?

Ans. ( pen )

Question: When you write something, what do you use?

図14 実践授業で生徒が作成したクイズ

## V 研究の結果と考察

### 1 帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施したことで、生徒の英語の語彙力が高まったか。

本研究を進めるに当たって、実践前のアンケートを5月に、帯活動ならびに英語を「書くこと」に関するアンケートを第1回目は9月、第2回目は11月に実施した。また、9月に「夏休みの思い出」、11月には「冬休みの予定」というタイトルで英作文テストをアンケート調査時に実施した。

「学習した英単語を正しく書くことができますか」という質問に対して、事前のアンケートでは、全体の47%の生徒が「できる」「どちらかといえばできる」と回答していたが、9月には64%に、11月には69%に上昇した(図15)。「帯活動に取り組むことで、知っている単語が増えましたか」という質問に対して、「増えた」「やや増えた」と回答した生徒は、1回目は全体の75%であったが、2回目は「やや増えた」と回答した生徒は減少したものの全体の84%に増加した(図16)。

英作文テストにおける生徒が使用した平均語彙数を調査したところ、1回目は40.9語、2回目は54.5語となり、13.6語増加した(図17)。1回目と2回目を検証群別に見ていくと、A群では24語、B群では16.9語、C群では8.6語とどの検証群においても増加した。英作文テストにおいて最大語数は1回目は53語であったが、2回目には32名の生徒がそれ以上の語数を書くことができ、100語以上書いた生徒も3名いた。

アンケートの自由記述から、「いろいろな種類の単語がまとまったプリントで、単語力が付いたと思います」「自分で文章を作ったりして、その単語の使い方が分かった」(A群)、「いろいろな国のことなどが良く分かったり、まだ知らないいろいろな単語が分かったりしたから、単語を書くこともできるようになった」「知らなかった単語が書けるようになった」(B群)、「帯活動で初めて出てきた新しい単語を覚えることができた。ゲームなどで、楽しく授業をする中で、覚えやすく工夫されていたから」(C群)など、生徒の語彙力の高まりが見られる記述が多かった。このような結果が得られたことから、帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施することは、生徒の英語の語彙力を高めるのに有効であったと考える。

### 2 帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施したことで、生徒の英文構造を理解する力が高まったか。

英作文テストにおける生徒が書いた平均英文数を1回目と2回目で比較したところ、1回目は5.6文、2回目は7.7文と平均で2.1文増加した(図18)。1回目と2回目の結果を検証群別に見ていくと、A群では

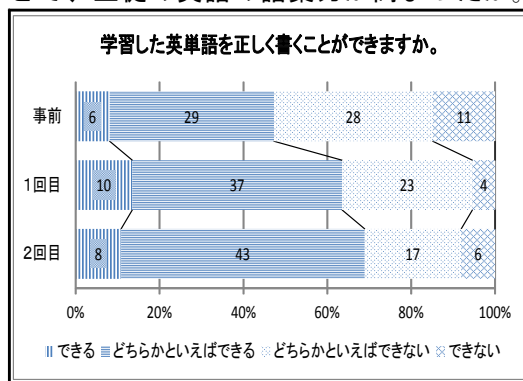


図15 帯活動に関するアンケート 1

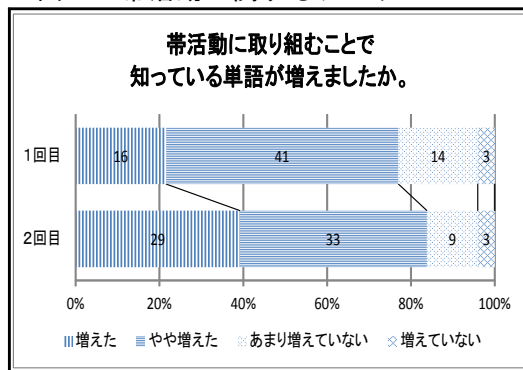


図16 帯活動に関するアンケート 2

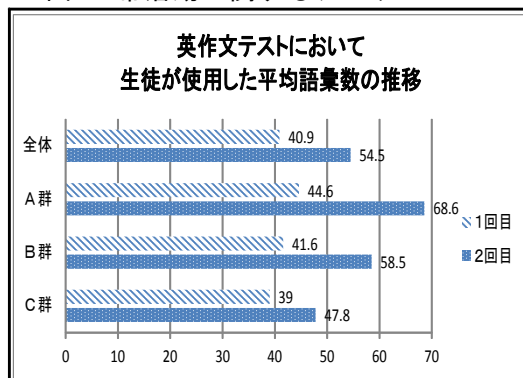


図17 英作文テストにおいて生徒が使用した平均語彙数の推移

「知らなかった単語が書けるようになった」(B群)、「帯活動で初めて出てきた新しい単語を覚えることができた。ゲームなどで、楽しく授業をする中で、覚えやすく工夫されていたから」(C群)など、生徒の語彙力の高まりが見られる記述が多かった。このような結果が得られたことから、帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施することは、生徒の英語の語彙力を高めるのに有効であったと考える。

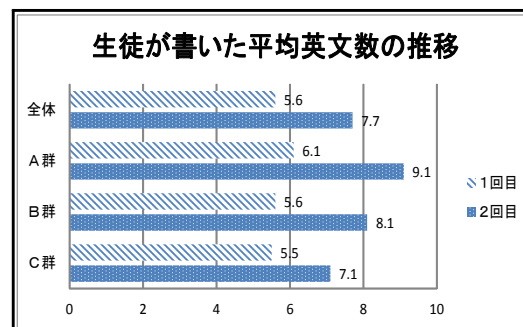


図18 生徒が書いた平均英文数の推移

3.0文、B群では 2.5文、C群では 1.6文とすべての検証群において増加した。1 回目を書くことができた最高文数は 8 文であったが、2 回目に 8 文以上書くことができた生徒は 32 名おり、最高で 17 文書くことができた生徒がいた。また、67 名の生徒が 1 回目よりも英文を多く書くことできた (図 19)。

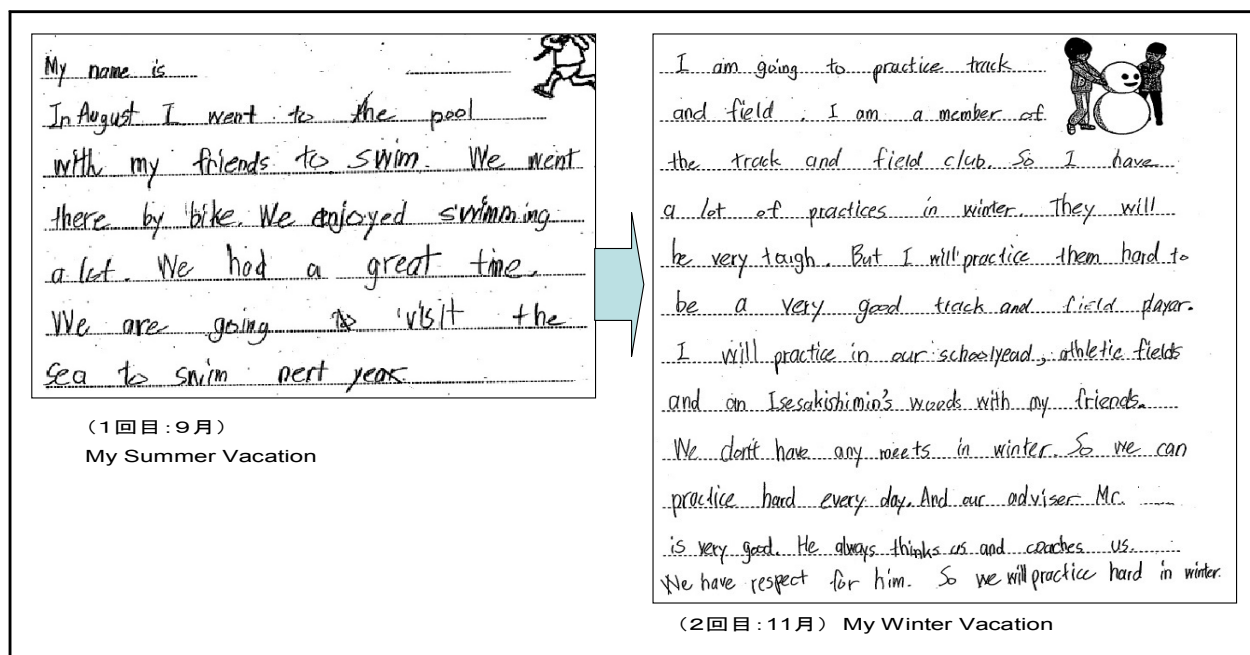


図 19 同じ生徒が書いた英文

生徒が書いた英作文における間違いのタイプを分析してみると、「文法・綴り共に正しい」英文の割合は、1 回目は書かれた英文全体の 52.8% であったが、2 回目は 64.4% に上昇した (図 20)。また、「文法と綴りの間違いが共に見られる」英文の割合は、1 回目は書かれた英文全体の 11.2% であったが、2 回目は 4.1% に減少した。一方で、「文法の誤りはないが、綴りの間違いがある」「綴りは正しいが、文法の誤りがある」英文の割合は 1 回目と 2 回目であり変化がなかった。生徒の英文を分析すると、2 回目の英作文テストでは、1 回目以降に学習した語彙や新出文法事項を用いて表現している英文が多く、間違いがその部分に集中していた。これは、新しい学習内容を理解はしていても、十分に定着していなかったことが原因と考えられる。「自分が表現したいことを英語で書くことができますか」という質問に対して、事前のアンケートでは、全体の 26% の生徒が「できる」「どちらかといえばできる」と回答していたが、1 回目は 64% に、2 回目は 72% に上昇した (図 21)。また、アンケートの自由記述から、「帯活動に取り組むことで、書く力や単語の知識が増えた」と私は思います。まだ習っていない単語をプリントで身に付けられ、そしてたくさんの文法を書くことで、書くことに対して関心も高まりました」「習った文法を使っているいろいろな文を書くことで、作文する力が付いたと思う」(A 群)、「帯活動では、国の名前や自分で英文を書いてみようなど、自分で作ることによって、理解が深まった気がする」「書く力が付いたと思います。プリントが多かったことも関係してくるかと思います、自分で書いてみるという形式のプリントがすごく勉強になったと思います」(B 群)、「私は書くことや聞くことが苦手だったけど、帯活動に取り組

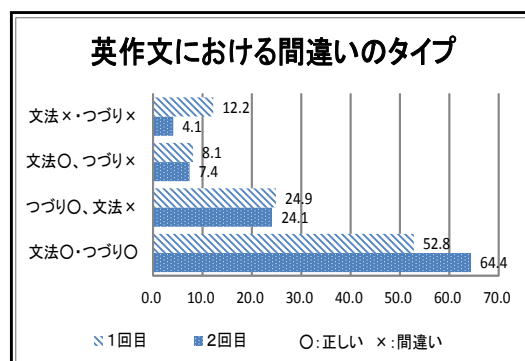


図 20 英作文における間違いのタイプ

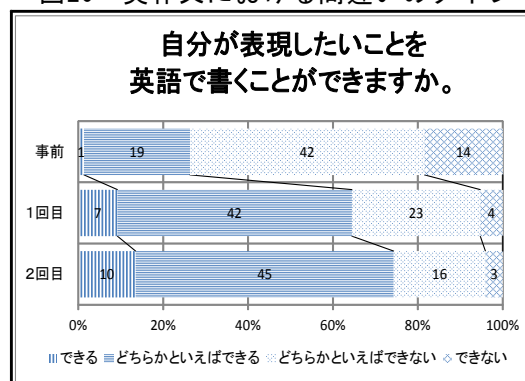


図 21 帯活動に関するアンケート 3

んで、書くことが何となくできてきて、聞くことも何となくこうでないかと、少し分かってきました」  
「1年生のときよりも文法を覚えるのが早くなった。楽しく英文を作ることができるので、苦ではなかったからだと思います」(C群)などの記述が見られた。

研究協力者は、「学年当初や帯活動を始めたばかりの頃は、『主語+動詞』の並びすらあいまいであった生徒も、帯活動を継続する中で、そのときに学習した新出言語材料を用いて、文を正しく組み立てられるようになってきた。また、間違えるポイントも、文の組み立てそのものから、冠詞や三人称単数現在形のsなど、細部の間違いに移行してきている」と生徒の英語を書く力が高まってきていると感じている。このような結果が得られたことから、帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施することは、生徒の英文構造を理解する力を高めるのに有効であったと考える。

### 3 帯活動用プラン集を活用した授業を毎時間実施したことで、生徒の英語を書いてみようという意欲を高めることができたか。

「英語の学習で書くことは好きですか」という質問に対しては、事前のアンケートでは全体の50%の生徒が「好き」「どちらかといえば好き」と回答していたが、1回目は53%に、2回目は65%に上昇した(図22)。「英語の学習で書くことに積極的に取り組んでいますか」という質問に対しては、事前では51%、1回目は72%、2回目は82%の生徒が「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」と回答しており(図23)、66%の生徒が「自信を持って英語を書くことができるようになった」「どちらかといえば自信を持って書くことができるようになった」と回答した(図24)。また、NRT検査で25%の生徒が無回答であったが、全員ある程度形になっている英文を書くことができた。帯活動に関するアンケートの自由記述から、「帯活動は難しいときもあるけど、その分やりがいがあると思います」(A群)、「英語についての考えが変わったりして、とてもいいと思います。苦手だったけど、少しでも理解できたなら自信にもなりますし、何よりもっと頑張ってみようかなと思うからです」「書くことがあまり好きではないけど、書くことをもっと深めたいと思うから、帯活動でもっと英文を作りたいと思った」(B群)「ifのところをごちゃごちゃで少し分かりにくかったが、この前帯活動のプリントをやったら前よりも理解することができました。英語が苦手だけど、前より「書くこと」が好きになりました」「帯活動は、とても嫌いな英語でも『やってみよう』と思える活動です。僕は、初めは英語に対してやる気がでませんでした。帯活動を始めて英語としっかりと向き合えるようになり、テストも点数が上がってきました。これからも帯活動を頑張って力を付けていきたいと思います」(C群)などの記述が見られた。

2回目のアンケート調査の際に、2名の研究協力者に聴き取り調査を行った。学年当初と帯活動を継続している調査時の生徒の実態の変化を「生徒の多くは『分からないからできない、やりたくない』から『よく分からないけれどとりあえず問題をやってみよう、英語を書いてみよう』という姿勢に変

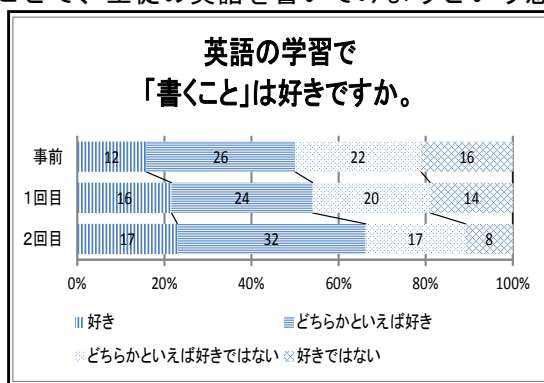


図22 帯活動に関するアンケート4

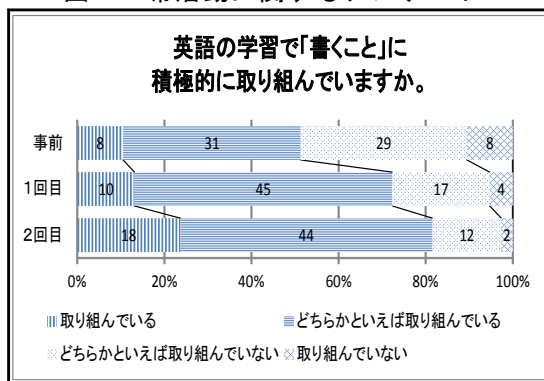


図22 帯活動に関するアンケート5

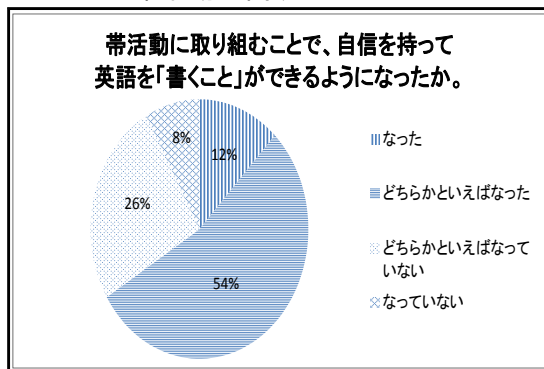


図23 帯活動に関するアンケート6

わったと思う」、「分からないことを『知りたい、分りたい』というふうに捉えられるようになってきた」、「英語で表現したいという意欲がわいてきた生徒が多く見られる」と述べていた。このような結果が得られたことから、本プラン集を活用した授業を毎時間実施することは、生徒の英語を書いてみようという意欲を高めるのに有効であったと考える。

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

- 生徒の興味を喚起するような教材、教科書などから提供される話題や題材に関連した単語集や表現集を帯活動用プラン集の中に配列し、毎時間の授業の中で使用し、生徒に取り組みせることで、生徒の英語の語彙力を高めることができた。
- 既習の言語材料や新出文法事項に視点を変えながら継続的・螺旋的に取り組むことができる教材を帯活動用プラン集の中に配列し、毎時間の授業の中で使用し、生徒に取り組みせることで、生徒の英文構造を理解する力を高めることができた。
- 帯活動用プラン集を毎時間の授業の中で使用し、生徒に取り組みせることで、生徒の英語の語彙力や英文構造を理解する力、英語を書こうとする意欲を高めさせ、英語を書くことへの抵抗感を減らすことができた。また、英語を書く力の向上を図ることができ、生徒が英語を書いて自己表現する能力を高めることができた。

### 2 課題

- 帯活動用プラン集を使用することで、生徒が英文を書く「量」を増やすことができたが、英語でまとまった文章を書くことに強い抵抗感を持っている生徒もいる。そこで、英文の書き方やどのような内容を書けば良いのかについて、意図的・計画的な支援が必要である。
- 生徒が英語で書いて、自己表現したまとまりのある文章についての評価規準を作成していく必要がある。英語を書くことへの支援をより一層充実させるために、生徒が書いた英文に見られる特徴や誤答例を分析しながら、生徒の実態に応じて達成状況を適切に判断できる規準が必要である。

## VII 提言

本研究においては、作成したプラン集の有効性を研究協力者や生徒の感想、英作文テストなどから確認することができた。生徒の英語を書いて自己表現する能力をさらに高めさせるために、中学校3年間の見通しを持った帯活動用プラン集を作成し、活用する必要がある。各中学校における生徒の実態に応じて、英語科における目指す生徒像や指導目標、CAN-DOリスト等を参考にしながら、年間指導計画作成時に各学期における中心となる自己表現活動を設定する。そして、自己表現活動の目標を達成できるような帯活動を計画し、家庭学習などとリンクさせながら実践を行うことで、生徒が英語を書いて自己表現する能力がさらに向上するのではないだろうか。

### <引用文献>

- ・柴田 健一 著 『自分の考えや意見を英語で発信できる力を育てる指導の一試み』 宮城県教育研修センター (2013)
- ・松尾 砂織 他著 『書く力を養う英語科の教材および学習指導開発』 広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要 (2011)

### <参考文献>

- ・文部科学省 編著 『中学校学指導要領 外国語編』 (2008)

- ・文部科学省 編著 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 (2008)
- ・国立教育政策研究所教育課程教育センター 編著 『特定の課題に関する調査(英語:「書くこと」調査結果)』 (2012)
- ・群馬県教育委員会 編著 『はばたく群馬の指導プラン』 (2012)
- ・群馬県教育委員会 編著 『第2回 ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査 結果分析資料』 (2013)
- ・村上 花恵 著 『中学校英語科における知識・技能の活用を図ることをねらいとした問題の作成』 岩手県立総合教育センター (2011)
- ・田中 武夫・田中 智聡 著 『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』 大修館書店(2003)
- ・横山 吉樹・大塚 健二 著 『英語教師のためのフォーカス・オン・フォーム入門』 明治図書 (2013)
- ・大塚 健二 著 『基礎からわかる! 成功する英語授業の組み立て方』 明治図書(2014)